

# 女子割礼問題の実態と西洋の普遍主義との関係

— エジプトにおける事例から —

ヘバタッラー・オマル\*

## キーワード

女子割礼、FGM、フェミニズム、普遍主義、他者表象

## 目次

- I はじめに
- II 先行研究と本研究の目的
  - 1 FGM 論争に関する先行研究
  - 2 エジプトの女子割礼に関する先行研究
  - 3 問題の所在と本研究の目的
- III 国連や WHO による介入とイスラーム側の主張
  - 1 FGM の起源と WHO による FGM の定義
  - 2 FGM 名称の展開
  - 3 世界における性器手術及び身体加工
  - 4 FGM 批判に対するイスラーム側の主張
- IV エジプトにおける女子割礼の実態
  - 1 エジプトにおける女子割礼の概要
  - 2 エジプトにおける女子割礼とイスラームとのかかわり
  - 3 1994年までのエジプトにおける女子割礼廃絶の動き
  - 4 1994年以降のエジプトにおける女子割礼廃絶の動きと西洋の介入
- V 考察
- VI おわりに

## I はじめに

文化人類学において、女性性器切除 (female genital mutilation、以下、FGM) は、重要な研究テーマのひとつである。これまで、FGM は、女性の身体を傷つけ、健康を損なうものであるとして、女性の人権やフェミニズムの視点、異文化表象の視点から多くの議論がなされてきた。しかしながら、それらの先行研究においては、それぞれの地域的背景の考慮が不十分であり、

西洋の普遍主義がそれぞれの地域の FGM の実践に与えた影響についての検討も十分になされていなかった。

そこで、本稿では、FGM の実践の一例として、エジプトの女子割礼の事例を取り上げ、エジプトの地域的背景に着目しつつ、西洋の普遍主義がエジプトの女子割礼問題の実態に与えた影響について明らかにしたい。なお、本稿では、エジプトの事例においては、FGM という言葉は用いず、エジプトにおいてより一

\* 名古屋大学大学院

般的に使用される「女子割礼」という言葉を用いる<sup>1</sup>。

## II 先行研究と本研究の目的

### 1 FGM 論争に関する先行研究

FGM について扱った研究においては、「普遍主義」対「文化相対主義」という枠組みのなかで数多くの議論がなされてきたと言われている (e.g. 大塚 1998、2000; 岡 1996、2000)。

岡 (2000) は「女性性器手術」をめぐるフェミニズムの論争の対立に焦点を当て、「第1世界」のフェミニストの「性器切除」批判は、「第三世界」の女性に対して植民地主義的な関係性を再生産する言説的な暴力、レイシズムの実践となりうることを指摘した。

宮脇 (2007) は、女子割礼の先行研究を詳細にたどりながら、FGM の歴史的な背景を明らかにしている。宮脇によると、1980年にコペンハーゲンで開催された「世界女性会議」では、女子割礼を「後進的な」アフリカやアラブの文化の「野蛮な」慣習としてみなしたホスケン (1993) に基づいた議論が行われたという。その女子割礼に対する捉え方に対してアフリカのフェミニストたちが抗議し、セミナーをボイコットするという事態に発展したと指摘する (宮脇 2007: 272)。岡が指摘した通り「第三世界」の女性たちにとって、この問題はつねに、「自己表象の権利」と不可分の問題として捉えられている。だが、このことは、「先進国」社会のフェミニズムにおいてほとんど理解されていない。アフリカ女性たちのこの、「先進国女性による性器切除批判」に対する批判は、そのコンテクストを分析されることなく「先進国」の女性たちによってすべて「伝統擁護」の言説に還元された (岡 2000: 93-94)。

1980年にコペンハーゲンで開催された「世界女性会議」以降、女子割礼は、ポスト植民地理論、グラムシの文化ヘゲモニー理論<sup>2</sup>、異文化表象、文化的な覇権などに基づいて、普遍主義の論争を生んだ。

ナエメカは、普遍主義に対抗する論争にかかわった名な一人であるが、彼女は、トラッカー (Trucker 1999) の開発の議論を参照しつつ、「アフリカとその民族を発展させるために数十億ドルが費やされたにもかかわらず、アフリカの多くの地域は以前よりも悪化している。失敗の原因は、アフリカ人が開発されていないという事実ではなく、開発自体の神話にある (Nnaemeka 2005: 28)」と述べている。

ヘイルは、FGM は西洋人として理解できない慣習であるとして、FGM を論ずることを拒否した (Hale 2005: 211)。特に、FGM やベール (ヒジャブ)<sup>3</sup> は、白人フェミニズムによりアラブやイスラーム教徒の女性搾取の印として使われていたが、FGM を受けるスーダンの女性の場合は、西洋による占領以前において、西洋の女性と比べ社会的な地位が高かったことが明らかになっている (Hale 2005: 211-212)。そして彼女は「白人の女性が自分で体験したことのない女子割礼に夢中になりながら、自分の社会でおこる数多くのDVによる死亡率や、西洋における美容整形のクリトリス切除や美容整形死亡者を無視していることは考慮する必要がある」(Hale 2005: 213) と述べた。

それらの研究に対し、アフマドは、アフリカのシエラレオネのコノ社会出身で、自ら FGM を受けたという点が大きく異なっている。アフマドは、アフリカ出身で FGM 経験がある「インサイダー」としての自らの視点を「アウトサイダー」の視点と調和させた (Ahmadu 2000)。アフマドは、コノ社会でのフィールドワークを通し、「女子割礼の医療化の必要性を求める。なぜ

1 岡によると、英語の「mutilation」という単語は、日本語の「切除」とは異なり、「身体を不完全なものにする」(岡 2000: 54) という意味を持つため、「女子割礼」や「女性器切除」ではなく、「女性器手術 female genital surgery」という言葉を使った。一方で、井口は、「Surgery」には近代的な病院における医療行為が連想されるので、この用法に対して反対している人もいる (井口 et al. 2019: 32) と指摘した。エジプトでは、アラビア語の書き言葉である標準語フスハ (fushā ْفُصْحَى) で、男子割礼と女子割礼についてヘターン (割礼) という言葉を用いる。男子割礼と女子割礼を区別する場合、女子割礼ではイナスという言葉をつけて「ヘターン・アル・イナス (khetan el inas ْخَتَانِ الْإِنَاثِ)」という。エジプトの口語 (アーンメヤ عامية) では、かつては、「ヘターン (نَتَخ)」というよりも「タハーラ طَهَارَة (浄化の意)」という言葉が頻繁に使われていた。しかし、近年では、「タハーラ」という言葉を用いることを避けるようになってきている。これは、割礼を受けていない人について「穢れ」という概念でみなすことが少なくなってきたことと関係する。一方で、イスラーム法学者やイスラーム科学者は、女子割礼は、男子割礼と違って、「ケファード khafad ْخَفَاض (クリトリスの包皮を切除すること)」という言葉の方がふさわしいという。このように、どのような言葉を用いるかについては、さまざまな議論があるが、エジプトで最も一般的に使われる言葉は「ヘターン・アル・イナス」、つまり「女子割礼」である。

2 グラムシ (Antonio Gramsci, 1891-1937年) の文化ヘゲモニー理論とは、支配者階級が武力ではなくリーダーシップによって従属者の支持を獲得し、この合意に基づいた政治関係を指す概念。ヘゲモニー概念がカルチュラル・スタディーズ及び、サイド (Said 1979) のポストコロニアル理論に影響を及ぼした。

3 イスラーム教徒の女性が頭を覆う布を指す。

ならこれは文化に反対するか進歩に反対するかを選択するよりもはるかに良いだろう (Ahmadu 2000: 309)」と指摘した。このようなアフマドの研究は、FGMに関する新しい考え方を提示するとともに、多くの研究者に影響を与えた。

例えば、ロンドノはアフマドの研究の影響を受けて、自由度を高め、残酷さを減らすことを目指すリベラリズムは、多くの慈善家を動機づける要因となる一方で、ものごとを単純化し硬化させるリスクがあると批判し、西洋人がFGMを考える場合に、自己批判が必要だと指摘した (Londono 2009)。

ロンドノはFGMを実践している社会の人々にとって、痛みや出血は当然のことであり、彼らは、感染やその他の健康問題のリスクは限られていることをよく知っていることや、彼らの多くは、成熟、健康、体の快適さ、美しさに関する限り、FGMの慣習は前向きに必要な効果さえあると今でも考えていることを指摘した (Londono 2009: 18)。

また、カタニアらは、FGMが性的快楽を妨げるという従来の指摘に反論し、ゼロトレランス政策<sup>4</sup>の提唱及び、医師がFGMに対して偏見を持っていることは、FGMを受けた患者が訴える性的苦痛に対し、適切な治療を提供できない危険性があると指摘している (Catania et al. 2007)。

このように、これまでのFGMに関する文化人類学の研究は、「普遍主義」対「文化相対主義」という枠組みのなかで議論がなされる傾向にあり、地域的背景や西洋の介入による影響についての考慮が不十分であった。

## 2 エジプトの女子割礼に関する先行研究

エジプトにおける女子割礼の人類学的研究及び、女子割礼の普遍主義に関する研究は非常に限られている。

まず、エジプトの女子割礼に関する人類学の研究には、フードファーによるものがある。フードファーは、1980年代のエジプト滞在を基に、エジプトの女子割礼の課題を取り上げ、貧しい階級にとっての女子割礼の意味を明らかにし、女子割礼は宗教とは無関係

であることを指摘した (Hoodfar 1997)。

また、エルサーダウィは、普遍主義による女子割礼のダブルスタンダードに触れ、白人フェミニストは第三世界の女性は女子割礼の犠牲者だと見なすが、白人女性もFGMのタイプI及びタイプIIと変わらないクリトリデクトミイ<sup>5</sup>の犠牲者であることを無視していると批判した。そして、中東における外国、特にアメリカの介入とそれに伴ったイスラーム原理主義という過激派の台頭と女子割礼との関係について言及した (Sa'dāwī et al. 1980)。

上記の研究は、示唆に富んだ研究であるが、年代がやや古いものであるため、1994年以降の西洋の激しい介入とその介入がエジプトの女子割礼に与えた影響についての議論がなされていないという問題点がある。

## 3 問題の所在と本研究の目的

ここまで概観してきたように、これまでのFGM論争やエジプトの女子割礼に関する先行研究では、それぞれの地域的背景の考慮が不十分であり、西洋の普遍主義がそれぞれの地域のFGMの実践に与えた影響についての検討も十分になされていなかった。したがって、これまでのようなフェミニズムの視点だけではなく、文化人類学の視点から、社会や歴史、政治との関わりをなかで、西洋の普遍主義がエジプトの女子割礼問題の実態に与えた影響について考察する必要がある。

本研究の目的は、女性性器切除の実践の一例として、エジプトの女子割礼の事例を取り上げ、エジプトの地域的背景に着目しつつ、西洋の普遍主義がエジプトの女子割礼問題の実態に与えた影響について明らかにすることである。

## III 国連やWHOによる介入とイスラーム側の主張

### 1 FGMの起源とWHOによるFGMの定義

FGMは、アフリカやアジアの一部で行われている。特に、アフリカでは、FGMは西アフリカから東アフリカ一帯の地域で広く行われている。FGMの起源に

4 国連は、少女と女性の約4人に1人、または世界中で5,200万人が医療従事者により女性性器切除を受けたため、女性性器切除の医療化は排除すべきと指摘した。そして、2012年に、国連総会が毎年2月6日は、医療化を含め女性性器切除のすべての形を排除する国際ゼロトレランスの日として指定し、この慣習の撤廃に向けた取り組みを拡大した。

5 クリトリスの一部または全部を切除 (Clitoridectomy) すること。

つについては、正確な証拠はない。しかし、例えば、ヒックスは、女子割礼の起源は、東南エチオピアの遊牧民にあるとしている。16～17世紀に生じたこれらの民族の拡大と、イスラーム交易との接触が、女子割礼の慣習の伝搬をうながしたという(宮脇 2007; Hicks 1996)。

1945年の設立以降、すべての人の普遍的な権利保護を目指す国連は、主にアフリカ及びアジア諸国で一般的に行われているというFGMを人権侵害とみなし、アフリカ及びアジア諸国にFGMを違法化するように圧力をかけた。WHOはこれに応じて、FGMを管理し、その実践を減らすためのガイドラインを提案した(Ball 2018: 4)。例えば、EUにおいては、EU法に基づき、FGMを受けた人々がEUを旅行することを禁止し、法律の下で彼らを裁こうとした(Ball 2018: 4)。

WHOは、FGMを四つのタイプに分類している(World Health Organization 2008)。タイプIはクリトリスの一部または全部の切除(クリトリデクトミイ)、タイプIIはクリトリスの切除と小陰唇の一部あるいは全部の切除(エクシジョン)、タイプIIIは外性器の一部または全部の切除及び陰部の入り口の縫合による狭小化または封鎖(陰部封鎖)、タイプIVは医療上の理由なしに女性器を傷つけるすべての行為で、女性器とその周囲に針状のものを刺して穴をあけることや、針状のものを突き通すこと、切り込みをいれること、こそげとること、腐食させたり焼灼させたりすることなどである。WHOによると、FGMの10%がタイプIIIであり、主にアフリカの北東部のジブチ、エリトリア、エチオピア、ソマリア、スーダンで行われているという。タイプIIIは、施術を受けた女性の多くが、セックス中に極度の痛みを訴えたり、出産時に生命を脅かす健康上の合併症を引き起こしたりする可能性がある<sup>6</sup>。そのため、FGM/Cのなかでも、最も重篤な形態である(Ball 2018: 5)と言われている。

## 2 FGM 名称の展開

大塚は、「いかなる言葉を選択するかは、それ自体がすぐれて「政治的」な行為である」と指摘する(大塚 1998: 257)。

女子割礼の名称をめぐることは、多くの議論がなされてきた。例えば、13世紀シリアのイスラーム法学者、

ハディース学者であるアブ・ザカリア・ヤフヤー・ブン・シャラフ・アル＝ナワウィー(*Abū Zakariyyā Yahyā ibn Sharaf al-Nawawī* أبو زكريا يحيى بن شرف النووي、1233年–1277年)は、「割礼は亀頭が露出するまで亀頭を覆う皮膚を切ることだ」(*Al-Shawish* 1991: 180)と定義した。彼のサヒーフ・ムスリム<sup>7</sup>の説明では、「女子割礼は雄鶏のたてがみのように見える外陰部の上部、尿出口の上にある皮膚の最も低い部分を切り取ることだ」(*al-Nawawī* 1972: 148)と定義された。

ケニア宣教師評議会は、1929年にケニアで活躍していたスコットランドの宣教師、マリオンスコットステューブソン<sup>8</sup>の呼び方にしたがって、女子割礼のことを「女性の性的切除(sexual mutilation of women)」と呼んだ(Karanja 2009: 93)。しかし、1980年代まで、英語の辞書では、まだ男子割礼 Male Circumcision (MC)のごとく女子割礼は、Female Circumcision (FC)と記載されていた(Nussbaum 1999: 119)。

1975年に、アメリカの人類学者、ローズ・オールドフィールド・ヘイズは、(*Female Genital Mutilation, Fertility Control, Women's Roles, and the Patrilineage in Modern Sudan: A Functional Analysis*)というタイトルの論文において、それを「女性性器切除(Female genital mutilation)」と呼んだ(Hayes 1975)。1979年に、オーストリア系アメリカ人の研究者フラン・ホスケンは、「ホスケンレポート」(*The Hosken Report: Genital and Sexual Mutilation of Females*)でこの実践を「切除(Mutilation)」と呼んだ(ホスケン 1993)。これらに基づき、アフリカ委員会及び、WHOは、それぞれ1990年と1991年に女子割礼を英語でFemale Genital Mutilationと名づけた(United Nations Children's Fund 2013)。WHO、ユニセフ、及び国連人口基金は、1997年4月にこの用語の使用を規定する共同声明を発表したことで、この用語は英語を起源としてアラビア語を含む世界中のさまざまな言語に広まった(World Health Organization 2008)。このような経緯で、1970年代から、「女性性器切除(Female Genital Mutilation)」と呼ぶことが増加しはじめた(World Health Organization 2008)。

## 3 世界における性器手術及び身体加工

1950年代初頭には、西洋において、ニンフォマニ

<sup>6</sup> WHOは、タイプIVの有病率に関する統計を収集していない。

<sup>7</sup> サヒーフ・ムスリム(ṣaḥīḥ Muslim、アラビア語: صحيح مسلم)とは、イスラーム教スンナ派で用いられる六つの主要なハディース集成書の一つ。

ア<sup>8</sup>や、うつ病の治療として FGM が行われた (Ball 2018: 10)。国連及び人権団体が FGM/C を人権侵害として定義しているにも関わらず、現在の米国では、FGM のタイプ I 及びタイプ II と変わらない女性性器美容整形 (クリトリデクトミィ、陰唇形成術及びフード切除手術<sup>9</sup>) と身体改造が非常に人気である。ASPS<sup>10</sup> 統計レポートによると、米国では、2016年には、290,000件の豊胸手術、235,000件の脂肪吸引術、223,000件の鼻の整形手術が行われた。17,100,000件の美容整形が13歳以上の人々に行われた。英国の国立衛生研究所の研究では、イギリス人の1.2%が認可された店で性器ピアスを受けた。これは国連で定義された FGM のタイプ IV と同じである (Bone 2008; Ball 2018: 11-12)。

また、世界女性人口のうち、女子割礼を受けた女性は約5.5%で、WHOによると、そのうち90%はタイプ I またはタイプ II の女子割礼を受けているという (Ball 2018: 3)。同時に世界男性人口30%以上が割礼を受け、特に米国では医療上の理由なしに75%の男子が割礼を受けている (World Health Organization et al. 2007: 8)。それにもかかわらず、国連や WHO は、西洋と違う文化的背景の基で行われる女子割礼を「野蛮」とみなす傾向にあり、その捉え方は国連の政策にも反映されてきた。

したがって、国連や WHO は、発展途上国の FGM 慣習を理解していないだけでなく、西洋における FGM 慣習と変わらないクリトリデクトミィ、陰唇形成術及びフード切除手術や、FGM と同じような危険性を含む身体改造の両方をサポートしている。このダブルスタンダードは、発展途上国という他者の文化に対する差別だけではなく、自文化性別間でも示されている。この国連や WHO による圧力は、女性らしさを高めるために整形手術を受けることを選択したアメリカ人女性にまで及んでいる。

#### 4 FGM 批判に対するイスラーム側の主張

イスラーム協力機構に所属する国際イスラーム・フィクフ・アカデミー評議会 (*International Islamic Fiqh Academy*) は、2018年10月28日から11月1日の間にサウジアラビアのメディナで行われた第23回会議で、イスラーム法学におけるフード切除手術<sup>11</sup> (*Clitoral Hood Reduction Surgery*) をめぐり議決定を発表した。

国際イスラーム・フィクフ・アカデミー評議会の決議によれば、イスラーム法学におけるフードリダクション手術は、クリトリアルフードリダクション手術またはクリトリアルプレップスリダクション (ケファード *Khefad* خفاض)<sup>12</sup>と呼ばれ、フード切除手術と違い、クリトリス自体は傷つけることなく、クリトリスの上のフォアスキン (ムスタリスキン) の小さな部分をカットすることを意味するという (*International Islamic Fiqh Academy* ホームページ参照)<sup>13</sup>。ケファードは古代の社会的慣習であり、預言者ムハンマドは、限度を超えないようにそれを洗練するように指示した。そして、そのケファードは一定の条件の基に必要な女性に限り許可されており、それ以外の場合は、女性の性器を傷つけることは認められてない (*International Islamic Fiqh Academy* ホームページ参照)<sup>14</sup>。女性の性器を傷つけることは、女性とその夫婦生活に悪影響を及ぼすことから、イスラーム法によって禁じられており、法的に犯罪とされている。

したがって、国際イスラーム・フィクフ・アカデミー評議会は、イスラームにおいて行われている女性のケファードは、国際的な保健機関、特に WHO によって禁止・警告されている FGM にはあたらないと主張している。

そして、国際イスラーム・フィクフ・アカデミー評議会は、イスラーム法域におけるフードリダクション手術に関する研究を検討し広範な議論を行った上で、「WHO は、宗教、地域社会、医療の指導者とともに FGM のトピックを再導入し、彼らの裁定に関する理

8 ニンフ (Nymph) を語源とする用語であり、その言葉には性的な意味が込められている。女性の性欲過多、多淫症をニンフォマニア (Nymphomania) と呼ぶが、英語の Nymph にはそうした抗いがたい性的魅力を持つものというニュアンスがある。

9 フード切除 (hoodectomy) は、女性の性機能と陰の美的外観を改善することを目的としてクリトリス包皮を縮小すること。

10 アメリカ形成外科学会 (American Society of Plastic Surgeons)

11 クリトリス包皮の縮小 (hoodectomy)。ここでは、女子割礼のこと。しかし、割礼や、ケファードではなく、フード切除あるいは、(Clitoral Hood Reduction Surgery) という言葉を使うことは西洋でも行われる実践のことを指すかもしれない。

12 Dictionary of Islamic Legal Terminology; Sheikh Ali Hashim as-Siraj, (2002) "FGM is Female Infanticide" (translation), pp. 26-29.

13 <https://www.iifa-aifi.org/ar/4879.html> (2021年1月5日閲覧)

14 <https://www.iifa-aifi.org/ar/4879.html> (2021年1月5日閲覧)

解と知識を向上させ、宗教情報を更新し、ケファードが必要な女性に対し、病院における現代医学の支援を求めよう呼びかけている。そしてケファードと他の犯罪化するタイプとの違いを明確にすることに同意した」(International Islamic Fiqh Academy ホームページ参照)<sup>15</sup>としている。

## IV エジプトにおける女子割礼の実態

### 1 エジプトにおける女子割礼の概要

エジプトにおいては、エジプト全国母子評議会(NCCM) (*The National Council For Childhood & Motherhood المجلس القومي للطفولة والأمومة*)によると、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の諸宗教が登場する以前の紀元前747年から紀元前656年の間に、エチオピアのエジプト侵攻により女子割礼が入ってきたという。ギリシャ時代のパピルス<sup>16</sup>にも、「結婚に備えて適切な割礼年齢に達したため、娘に割礼を受けさせたい」<sup>17</sup>という女性の話が残っている。

現在のエジプトでは、女子割礼は、イスラーム教徒の女性と、キリスト教徒の女性の間で行われている(Asaad 1980)<sup>18</sup>。エジプトで行われる女子割礼は、74%がWHOのタイプのタイプI、26%がタイプIIに属する(Ronan 2020; Ismail et al. 2017)。女子割礼を受ける平均年齢は10.1±2.3歳である(Tag-Eldin et al. 2008: 272)。エジプトでは、宗教的伝統、清潔さ、文化的・社会的伝統により、女子割礼が行われている(Tag-Eldin et al. 2008: 272)。

親の教育及び、家族の居住地によって割礼を受ける女子の割合が異なる。割礼を受ける少女の割合は農村部では増加し、都市部では減少する(Tag-Eldin et al. 2008: 271)。

2014年のエジプト人口保健調査(EDHS)によると、15歳から49歳までの既婚女性の92%が女子割礼を受けた。そのうち20～24歳の女性のなかで、女子割礼を受けたのは87%だった。それに対し、35歳から49歳の女性のうち、女子割礼を受けた割合は、約95%だった(Ronan et al. 2015: 2; El-Gibaley et al. 2002)。

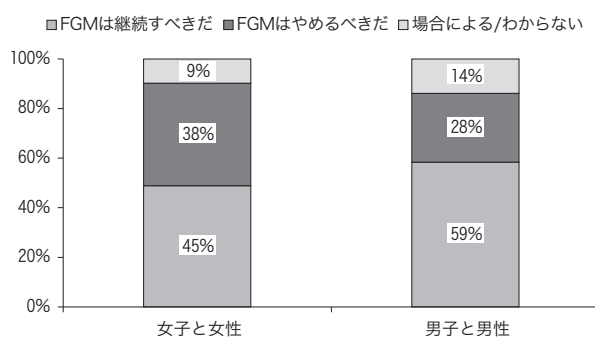


図1. エジプトのFGMの継続の是非に対する15～49歳の女子と女性及び男子と男性の割合<sup>19</sup>

ローナンによると、「10～19歳の少女のFGM率は、母親よりも約10%低いことを示した。つまり実践のゆっくりとした衰退を示唆している」(Ronan et al. 2015: 2)という。「2005年、2008年、2014年のエジプト人口保健調査(EDHS)の調査分析によると、FGMがエジプトで衰退していることを確認した。FGMを受けた女性の割合は、過去数十年にわたって衰退している。この衰退は、社会のより近代化されたセグメントに限定されるものではなく、より伝統的なセグメントにも広がっている」(Ronan 2020: 1-2)と指摘しているが、女子割礼が完全に消えるとはいえない。

エジプトにおいて、女子割礼に反対する既婚女性の割合は、1995年から2014年の間に、大幅に増加した(Ronan et al. 2020; Alkhalailah et al. 2018)。1995年には、既婚女性の13%が、女子割礼に反対していたが、2003年には、既婚女性の23.3%が女子割礼に反対し(Ronan et al. 2020; El-Zanaty 2006)、2014年には、既婚女性の31%が女子割礼に反対した。以下のユニセフのエジプトに関わるデータ(図1)によると、男女ともに、女子割礼に反対する割合が徐々に高まっていることがわかる。それにもかかわらず、エジプトでは、まだ多くの女子が女子割礼を受けており、今でもそれを支持している女性や男性もいる(Ronan et al. 2020; Alkhalailah et al. 2018)。女子割礼の主な決定者が母親であり、父親がマイナーな役割を果たす(Tag-Eldin et al. 2008: 272)。

15 <https://www.iifa-aifi.org/ar/4879.html> (2021年1月5日閲覧)

16 大英博物館に保存され、紀元前163年の24号と番号づけられたパピルス。

17 エジプト全国母子評議会(NCCM)2019年「メディアと女子割礼、イメージを変え、方向を構築するための実験」アラビア語p.3。

18 エジプトの総人口のうち、女性が49%、男性は51%を占めている。年齢構成は0から14歳が33%、15歳から64歳が62.7%、65歳以上が4.3%である。宗教は、イスラーム教が90%であり、キリスト教徒は10%である。

19 Female Genital Mutilation in Egypt-Recent trends and projections February 2020 brochure <https://data.unicef.org/> (2020年9月30日閲覧)

## 2 エジプトにおける女子割礼とイスラームとの かかわり

ターグ・エルディーンらの調査によると、エジプトの既婚女性のうち、女子割礼は宗教的伝統であると信じている人は少なくないという (Tag-Eldin et al. 2008: 272; Carr 1997: 28)。しかしながら、エジプトの90%の人々が信仰するイスラーム教のコーランのなかに、女子割礼を要求または禁止する記述は見受けられない。預言者ムハンマドの自伝や当時の書物においても、預言者ムハンマドの娘や同じ時代に生きた女性たちが女子割礼を受けたという記録も一つもない。ハディースのなかには、限度を超えないようにと説明している (Coleman 1998) という女子割礼に関する記述が見受けられるが、多くのイスラーム聖職者は、このハディースは預言者との系譜があいまいで疑わしいと捉えている。

他方、フードファーは、エジプトでの女子割礼の当事者へのインタビューから、「女性は最初にそれをイスラームの慣習として私に説明した。しかし、イランやサウジアラビア、そして他の多くのイスラーム諸国の人々はそれを実践していないことを彼女たちに伝えたとき、彼女たちはそれがエジプト文化の一部であると示唆した (Hoodfar 1997: 258)」と指摘している。つまり、エジプトにおいては、呪術的宗教が古くから存在し、民間信仰は、宗教と慣習の中間領域に位置するものであった。エジプト民間信仰の儀式の多くは、男性よりも女性と結びつきが強い傾向にある。エジプト社会においては、エジプト社会に強く根差した古代信仰と、ニューカマー及び、外来宗教とみなされるキリスト教やイスラーム教のような宗教が結合して行われた行事が多くある。

## 3 1994年までのエジプトにおける女子割礼廃絶の動き

FGMの国際的な廃絶運動は、欧米のフェミニストによって1970年代末からはじめられ、1980年代になると、WHOやUNICEFなどの国連の専門機関もこの

運動を支援しはじめた。その後、こうした国際的な圧力に押されて、FGMを行っているアフリカ諸国も、FGMの廃絶に動き出した (宮脇 2007: 260) と言われている。しかし、エジプトでは、1970年以前からFGMの廃絶の動きが見られた。

1904年3月に、有名なイスラーム雑誌 Al-Manar が「女子割礼の必要性」を特集し、そこで同誌の編集長であるラシード・レダ<sup>20</sup>は、「イブン・アル・ムンディル (Ibnal-Mundhir)<sup>21</sup>は女子割礼は、スンナ<sup>22</sup>であることの参考や証拠はない」と述べた<sup>23</sup>。

1920年代以降は、エジプトには小さいながらも活発な反FGC団体があった (Dillon 2000)。この反FGC団体は1950年代にある程度の成功をおさめた。1959年に政令74号を発効し、保健省に属する国立病院や部署で女子割礼を行うことを禁止した。この74号の決定の第一条のリストに、保健省ムスタファ・アブデル・ハレク次官、エジプトのグランド・ムフティ (最高イスラーム法官)、ハッサン・マモン、及びエジプトの元グランド・ムフティ、ハサネイン・ムハンマド・マクルフらの聖職者と医学者の15人のメンバーからなる委員会の名前が含まれた。この74号の決定の第2条に、「医師ではないものが女子割礼を実行することを禁止すること。私立病院やクリニックで行う場合、クリトリデクトミィを行うこと」が決定された (Assaad 1980; Dillon 2000)。しかし、このFGCの部分的な禁止は、ナセル政権下 (1956–1970年) とその後のアンワルサダト政権下 (1970–1981年) で施行されることはなかった (Assaad 1980)。このような動きは、当時、女子割礼の最終的な廃絶にまで至らなかった。

1951年には、医学を専門とする『ドクター (Doctor)』誌が、「女子割礼の危害について」というレビューを発表した。1952年には、アル＝アズハル大学の上級学者評議会のメンバーであるシェイク<sup>24</sup>＝ムハンマド・アラファアが、1952年の『アル＝アズハル大学』誌第24号において、男子割礼と女子割礼に関する論文を発表し、次のようなことを述べた。「女子割礼は義務だと述べたイスラームのテキスト (コーランやハ

20 ラシード・レダは、ムハンマド・アブドゥという有名なエジプト出身のウラマー (イスラーム法学者) でイスラーム改革思想家の弟子である。

21 アブ・バクル・ムハンマド・イブン・イブラヒム・イブン・アル・ムンディル・アル・ナイサブリ (856–930年) は、シャーフィーイ学派の有名な学者だった。イブン・アル・ムンディルとして有名である。

22 スンナ (سنة *Sunnah*) は、踏み慣らされた道＝慣行。ここでは、イスラームにおける預言者ムハンマドの言行・範例 (سنة نبوية *Sunnatu'n-Nabawiyah*: 預言者のスンナ) を指す (Wehr et al. 1976: 433)。

23 エジプト全国母子評議会 (NCCM) 2019年「メディアと女子割礼、イメージを変え、方向を構築するための実験」アラビア語 p. 17。

24 修道会のメンバー、あるいはイスラーム知識人を意味する (Wehr et al. 1976: 496)。

ディース)はない。エジプト社会における女子割礼の現象は世代から世代へ伝わった慣習であり、特に知識人の間で消えたこの慣習は、だんだんすべての階級の間で消えていくはずだ。サウジアラビア、湾岸諸国、イエメン、イラク、シリア、東ヨルダン、パレスチナ、リビア、アルジェリア、チュニジア、モロッコなどイスラーム諸国のほとんどが女子割礼をやめたことは、イスラーム法的なテキストがない証拠だ」と主張した。

1959年には、アル＝アズハル大学の最も有名なシェイクの一人であるシェイク＝マフムード・シャルトアウトは、現代のイスラーム教徒の日常生活と公共生活における問題の研究を取り上げた『ファターワー』<sup>25</sup>という本を著し、次のようなことを唱えた。「スンナやイスラーム法では、女子割礼が好ましい行為だという証拠になるものはない。以前のイスラーム法学者は、女子割礼のイスラームとの関係の法学的な証拠になるようなものはない。歴史的な証拠もない。そして、シャルトアウトは、シャリアの判決は伝達されたテキストではなく、「男女を問わず、利益なければ、痛みは許容さすべきではない」という一般のシャリア規則に基づくべきであるとしている (Shaltut 2004: 285)」。

アジザ・フセインが議長を務める「家族計画協会」は、1979年10月に女子割礼問題に関する会議を開催し、その際、割礼は長期にわたる心理的及び肉体的損傷を引き起こすものであると合意し、神聖な宗教にはこの慣習を課す文章がないことを強調した。会議の結果、女子割礼の慣習と戦うための独立したプロジェクトが割り当てられ、協会は1985年にその活動を開始した。これには、医療従事者と保護者向けのトレーニングプログラムとセミナーが含まれる。このプロジェクトは後に「女性と子供に有害な慣習の防止のためのエジプト協会 (الجمعية المصرية للوقاية من الممارسات الضارة بالمرأة والطفل) Egyptian Association for the Prevention of Practices Harmful to Women and Children」と呼ばれる独立した組織となった<sup>26</sup>。

1980年代までは、女子割礼は宗教的に必要だと思うエジプト人女性は、イスラームの慣習であるためと

いうよりも、エジプト社会にとって大事な慣習であるために女子割礼を守る必要があると考えていた。フードファーは、エジプトで女子割礼を受けた女性にインタビューを行い「女性は最初にそれをイスラームの慣習として私に説明した。しかし、イランやサウジアラビア、そして他の多くのイスラーム諸国の人々はそれを実践していないことを彼女たちに思いさせたとき、彼女たちはそれがエジプト文化の一部であると示唆した」(Hoodfar 1997: 258)と指摘している。そして、1994年にかけて、エジプトにおいても、西洋による介入とは無関係に女子割礼の廃絶を目指す政策が取られた。

#### 4 1994年以降のエジプトにおける女子割礼廃絶の動きと西洋の介入

1994年はエジプトにおける女子割礼にとって転換点となる一年であった。その年に、国連の後援の下、エジプトの首都カイロにて国際人口開発会議<sup>27</sup>(以下、ICPD)が開催された。この会議には、複数の政府、国連機関、非政府機関、メディアの20,000人の代表者が参加した。そしてICPDの開催と同時に、CNNがカイロで10歳の少女が床屋によって割礼をされる様子を生放送した。CNNの生放送は国際的な注目を集めた。世界中の新聞も、女子割礼の慣習や、エジプト政府、エジプトの聖職者を激しく批判した (Bhatia 1994; Mann 1994; Meghalli 1994を参照)。当時国内で最も著名なイスラーム聖職者の一人であるシェイク＝ガドアルハクは女子割礼の有罪化を拒否する。彼は、割礼は女性の名誉であり、権利であると述べたが、割礼が祈りと同等の義務として見なされるべきであるとは決して言及しなかった。しかし、フランス通信社は、「女子割礼は、イスラーム教では義務づけられていないが、シェイク＝ガドアルハクは、地元の聖職者たちに国民に祈りを勧めるように、家族に娘を割礼するように勧めた」と伝えた (Agence France Presse 1996)。

CNNの生放送は、女子割礼を受けた犠牲者の顔を映したため、エジプトのメディアや、多くのエジプトの知識人たちは、CNNが少女のプライバシーを尊重

25 ファターワー (fatāwā) は、ファトワー (فتوى) の複数形。ファトワーは、イスラーム法学に基づいて発令される勧告、布告、見解、裁断のこと。

26 エジプト全国母子評議会 (NCCM) <http://nccm.gov.eg/> (2021年1月21日閲覧)

27 International Conference on Population and Development. 1994年9月5-13日にエジプトの首都カイロにて開催された国際人口開発会議のこと。



しなかったことや、CNN が、少女を助けることより動画を取ることを重んじたことを批判した。そしてこの CNN による生放送は、エジプトで行われる女子割礼の現実を反映しておらず、エジプトの評判を傷つけることを意図するとして、ICPD による介入が批判された。ICPD や、CNN のエジプトの女子割礼の生放送まではエジプトでは、女子割礼と宗教との関わりはそれほど強くなかった (Hoodfar 1997: 258)。しかし、ICPD や、CNN の生放送以降は、女子割礼を自分たちのアイデンティティにかかわる問題として取り上げることが増えた。1994年9月24日のエルシャープ新聞では、「CNN の生放送は、割礼の現状を伝えたのではなく、CNN と一部のエジプト人によって悪意を持ってつくられたものだった」と伝えた<sup>28</sup>。アフリカの各国政府がゼロトレランス政策により FGM を法的に禁止したため、FGM の医療化も禁止された。しかし、統計上女子割礼の実施率は低下してきているが、女子割礼は完全に消えたわけではない。医療化の禁止は、エジプトにおける女子割礼の医療化とともに、すでに1950年代以降消えつつあったダーヤ (Daya、伝統産婆)、床屋、ガガリッヤ (Ghagaria、ジブシー)、看護師などによる伝統的な女子割礼や、設備が整っていないクリニックで実施することにより危険性を高めると言う意見がある<sup>29</sup>。そして、エジプト人の知識人やエジプト人の医者も多くは、女子割礼の医療化は、医者が親と割礼の相談をする機会を与えたり、親に女子割礼を受けさせることをやめる機会につながり、どうしても親が納得しない場合は、安全な環境で女子割礼を行うために、医療機関で実施するため、女子割礼の医療化を勧めた<sup>30</sup>。

1994年10月19日、エジプトの保健省は、国立病院で女子割礼を行うという閣僚決定をした。しかし、1995年10月にエジプトの保健省は、国立病院での女子割礼を禁止した。しかし、西洋の女子割礼への介入に抵抗した人々による論争の結果、エジプトの保健大臣は、国立病院で女子割礼を週に1日行うという妥

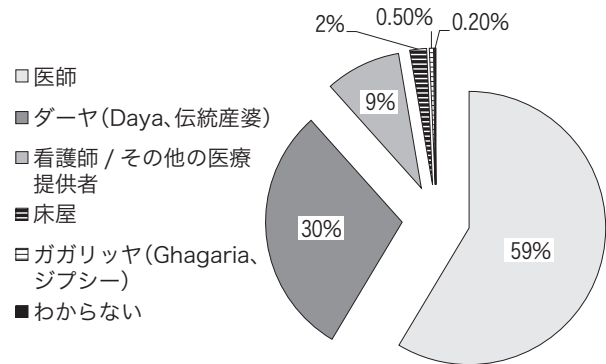


図2. エジプトの FGM を受けた 15~19歳の女性及び少女の女子割礼実施者の種類別割合<sup>31</sup>

協政策を確立した。1996年になると、エジプト保健省令は、病院の産婦人科長によって認定された医学的理由を除いて、すべての医療従事者及び非医療従事者が公共施設または民間施設で女子割礼を実施することを禁止した。保健と人口省<sup>32</sup>の大臣は、1996年に、女子割礼を禁止する政令第261号を発効した。これに違反したものは、医師免許を失い、刑事罰の対象になる (Tag-Eldin et al. 2008)。1995年の第4回世界女性会議 (北京会議) は、1994年の ICPD をめぐる論争によって覆い隠された。1995年1月に、エル・アラビーという雑誌では、ICPD 会議のことを「旋風会議」と呼び、その会議、その目標、そして西洋の介入方法を批判した<sup>33</sup>。ICPD 以降の西洋の介入に対するエジプト人の不満が少し落ち着いた1997年に、米国は、今までのエジプトへの助成を女子割礼と結ぶことにした。この米国の介入政策への批判と、米国の援助を断る必要性についても多くの議論があった<sup>34</sup>。

2007年には、エジプト南部のミンヤ市で女子割礼を行っていた際、少女バドゥール (13歳) が亡くなった。これを受けて、保健大臣は、2007年に政令第271号を発効した。その政令により、医療機関や診療所、及び被害者の住居を含むその他すべての場所で女子割礼を一切実施しないように強調した。2007年7月以降、通報窓口と相談窓口 (小児及び産科カウンセリングラインのフリーダイヤル) が設置され、実際に女子

28 Tarek Abdel Hmid ターレク・アブデル・ハミード。1994年9月24日「女性の割礼の問題は、イスラームのイメージを歪めることを目的」『エルシャープ新聞 elshaab』

29 「メディアと女子割礼、イメージを変え、方向を構築するための実験」エジプト全国母子評議会 (NCCM) アラビア語 2019年7月9日 (2007年9月19日サウト・エルオツマ Soutalomma 新聞参考) p. 27。

30 「女性の割礼を防ぐために法律が必要だ。」アルムサワール新聞 (Al-Musawar)、1997年7月4日。

31 Female Genital Mutilation in Egypt—Recent trends and Projections February 2020 <https://data.unicef.org> (2020年9月16日閲覧)

32 1996年に保健省から保健と人口省に改称された。

33 Nader A-Fergani 1995年1月。「人口と開発」エルアラビー雑誌 <http://www.3rbi.info> (2021年1月10日閲覧)

34 1997年10月22日「女子割礼と米国の支援を結ぶこと」ドストゥール新聞 dostor。

割礼を行った場合は、親も医師も処罰されることとなった。

2008年と2016年には、エジプト政府は女子割礼を犯罪とする2つの立法案を議会に提出した。2008年に可決された最初の法律では、女子割礼は軽罪とみなされていたが、2016年9月26日に公式官報に掲載された2016年法律第78号に基づく第242によると、「刑法第61条の規定にしたがい、他の法律で規定されているより厳しい罰則を害することなく、女性の割礼を行うものは、5年以上7年以下の懲役に処せられるものとする。女性の割礼とは、この記事の規定によれば、医学的正当性のない女性器の一部または全部の除去を意味する。この行為が恒久的な障害をもたらす場合、またはその行為が死につながる場合、厳罰となる」。

2014年5月に、エル・バヤーン雑誌の第323号は、ICPDは、地球のすべての人々を宗教、文化、国籍、人種の違いに関係なく、経済的、社会的、知的活動を統合し、グローバル化によって多様なものがひとつの色に染まることを鋭く批判した<sup>35</sup>。

2018年5月30日には、イスラーム法について助言する政府機関であるダール・アルイフター・アルマスレッヤー (Dar al-Ifta al-Misriyyah、エジプトのイスラーム勧告局) は、FGMは「厳しく禁じられている」と宣言した。アーメド・エマド・エルディン・ラディ保健相は、2030年までにエジプトでFGMを撲滅するための6段階の計画を発表した<sup>36</sup>。

以上のような法的手続きや非政府機関による女子割礼廃絶に向けた動きがあるにもかかわらず、図1のように、いまだに女子割礼を継続的に支援する人たちは多い。そして、女子割礼に反対しながらも、国立病院で女子割礼を禁止していることに反対している意見もある<sup>37</sup>。エジプトにおける女子割礼の広がりについては、ターグ・エルディーンらの医学的背景の報告 (Tag-Eldin et al. 2008) がある。この報告は、2005年にエジプト全国の386,816人の女子学生への面接に基

づくものである。この報告によると、女子割礼を受けた女子学生は、全体の50.3%であり、都市にある国立学校の学生では46.2%、私立学校 (インターナショナルスクールを含む) の学生では9.2%を占めた。地方の学校では、女子割礼を受けた女子学生が61.7%であった (Tag-Eldin et al. 2008: 271)。つまり、高い教育レベルの階級でも、女子割礼の継続を支援する人もいる。

## V 考察

IV章で記述したエジプトの地域的背景に着目すると、エジプトにおける女子割礼は、はじめからイスラーム教の伝統であったわけではなく、イスラーム教により禁止されず許可されたため、七世紀にイスラーム教がエジプトに入ってきて以降、民間信仰の形から、イスラーム化された可能性があると考えられる。まず、エジプトでは、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の諸宗教が登場する以前の紀元前747年から紀元前656年の間に、エチオピアのエジプト侵攻により女子割礼が入ってきており、ギリシャ時代のパピルス<sup>38</sup>にも、「結婚に備えて適切な割礼年齢に達したため、娘に割礼を受けさせたい」<sup>39</sup>という女性の話が残っている。一方、女子割礼の一つの形態は、神々の両性愛に対する古代エジプトの信念に根ざしている可能性があるという指摘がある (Assaad 1980; Meinardus 1967)。古代エジプトの両性愛のこの信念によれば、すべての男性と女性は男性と女性の両方の魂を持っている。男性のペニスに女性の魂があり、女性のクリトリスに男性の魂がある。健康的な性の発達のために、女性の魂は男性から切除され、男性の魂は女性から切除されなければならなかった。割礼は、男の子が男性になり、女の子が女性になるために不可欠だった (Assaad 1980; Meinardus 1967: 388-389)。このことから、エジプトにおける女子割礼は、はじめは、イスラーム教の伝統とみなされていなかったと言えるだろう。7世紀

35 2014年5月 Hoda Bent Rashid El Dabbas ホダ・ベント・ラーシド・エルダッパース 「ICPD と対決」『エル・バヤーン雑誌』 <http://www.albayan.co.uk/MGZarticle2.aspx?id=3626> (2020年12月25日閲覧)

36 Saad, Menna 2018年5月31日。"Female Genital Mutilation is declared religiously forbidden in Islam." Egypt Today. (2020年12月25日閲覧)

37 「メディアと女子割礼、イメージを変え、方向を構築するための実験」エジプト全国母子評議会 (NCCM)、アラビア語 2019年7月9日 p. 27。

38 大英博物館に保存され、紀元前163年の24号と番号づけられたパピルス。

39 「メディアと女子割礼、イメージを変え、方向を構築するための実験」エジプト全国母子評議会 (NCCM)、アラビア語 2019年7月9日 p. 3。

に、イスラームが入ってきた頃のエジプトは、エジプト社会に強く根差した古代信仰があり、このような民間信仰は女性との結びつきが強かった。しかしながら、ターグ・エルディーンらなどの最近の多くの調査が、エジプトの既婚女性のうち、女子割礼は宗教的伝統であると信じている人は少なくないと示している (TagEldin et al. 2008: 272; Carr 1997: 28) ことから、エジプトにおける女子割礼は、7世紀頃に、民間信仰の形から、イスラーム化された可能性があると指摘できるだろう。

IV章の3節、4節でみてきたように、エジプトの20世紀初頭以来の女子割礼廃絶運動にはエジプト人のイスラーム教徒の聖職者をはじめ、知識人や、エジプト人の医者がかかわった。その当時、エジプトはまだイギリス植民地であったが、エジプト社会は、家族の問題については、外国からの介入を受け入れ難かった。国連の設立以前にさかのぼるエジプトにおける女子割礼廃絶運動は外国の介入の形をとらなかつたため、エジプト人にとって受け入れやすかつた。その廃絶運動は、西洋の介入以降の廃絶運動に比べて大きな成果は生み出さなかつたが、ヘゲモニーで包まれた人権を拒否する形を生み出さなかつたため、安定していたと考えられる。

一方、1994年以降は、西洋の国々が、西洋以外のアフリカなどで行われる女子割礼の実践をFGMとみなす一方、西洋で行われる同じような実践についてはクリトリデクトミィとみなすダブルスタンダードに加えて、エジプト社会の現状を歪曲して放送したCNNの番組や、アメリカの経済的支援を女子割礼の問題と結びつけたこと、女子割礼の医療化を禁止する西洋の圧力といったエジプトの女子割礼に対する西洋の政治的な介入は、エジプト人の不満を高めた。特に、エジプトの多くの知識人やイスラーム聖職者が中心となつて、そのような西洋の介入に対抗した。女子割礼廃絶を支援している人たちの間でも、まだ女子割礼が多く行われているにもかかわらず、西洋の政治的介入によって国立病院での女子割礼を法律で禁止することは、人々をダーヤや、手術の設備の整っていない診療所での女子割礼の実施に導くだろうと指摘した医者もいるように、このような西洋の政治的介入は、厳罰な法律に反して女子割礼を行うケースを多く生み出すようになったと指摘できる。

## VI おわりに

本稿では、女子割礼の普遍主義に対する論争に焦点を当てた。その普遍主義のダブルスタンダードの問題をFGMの名称及び、西洋における身体加工を通して取り上げた。そして、エジプトにおける女子割礼の事例を取り上げつつその普遍主義がエジプトの女子割礼にもたらした影響を明らかにすることを試みた。その結果、エジプトにおける普遍主義による介入は、西洋の文化ヘゲモニーを拒否する人々の立場、及び、アイデンティティの擁護者に対する他の人々の立場の批判につながつたため、女子割礼問題に害を及ぼしたということが指摘できた。したがって、普遍主義によるFGMゼロトレランス政策とそれに伴つた医療化の禁止を見直すべきだと考える。

本稿を通し、エジプトにおける女子割礼は、必ずしもイスラーム教やキリスト教的な原因ではなく、民俗信仰につながることに焦点を当てたが、この点の調査及び現在の当事者の女性が意識している女子割礼という点について十分に検討することができなかつたため、今後の課題としたい。

### 参考文献

(日本語文献)

井口 由布、アブドゥル・ラシド

2019 「「女性器切除」と言説の政治——近代医学的まなざしの自明性を問い直す」『年報カルチュラル・スタディーズ』7: 27-45。

岡 真理

1996 「「女子割礼」という陥穽、あるいはフライデイの口——アリス・ウォーカー『喜びの秘密』と物語の欲望」『現代思想』24(6): 8-35。

2000 「「女子割礼」という陥穽、あるいはフライデイの口」『彼女の「正しい」名前とは何か』pp. 89-125、青土社。

大塚 和夫

1998 「女子割礼及び／または女性性器切除 (FGM) ——一人類学者の所感」『性・暴力・ネーション』江原由美子 (編)、pp. 257-293、勁草書房。

2000 『近代・イスラームの人類学』東京大学出版会。

ホステン, F.

1993 『女性割礼——因習に呪縛される女性の性と人権』鳥居千代香 (訳)、明石書店。

宮脇 幸生

2007 「グローバル化する世界における女子割礼／女性性器切除——交渉されるジェンダーとセクシュアリティ」『ジェンダー人類学を読む——地域別・

テーマ別基本文献レビュー』宇田川妙子、中谷文美（編）、pp. 260–392、世界思想社。

(外国語文献)

Agence France Presse

1996 *Imam of Al-Azhar goes on trial for urging female circumcision*. Paris: Agence France Presse.

Ahmadu, Fuambai

2000 Rites and Wrongs: An Insider/Outsider Reflects on Power and Excision. In *Female "circumcision" in Africa: culture, controversy, and change*. Shell-Duncan, Bettina, Ylva Hernlund, (eds.), pp. 283–312. Boulder: Lynne Rienner Publishers.

Alkhalaileh D., Hayford S. R., Norris A. H., Gallo M. F.

2018 Prevalence and attitudes on female genital mutilation/cutting in Egypt since criminalisation in 2008, *Cult Health Sex* 20(2): 173–182.

Assaad, Marie Bassili

1980 Female circumcision in Egypt: Social implications, current research, and prospects for change, *Studies in Family Planning* 11(1): 3–16.

Ball, Casey L.

2018 Orientalism and the UN: Deconstructing the Double Standard in Policies of FGM/C, *EWU Student Research and Creative Works Symposium* 23: 1–28.

Bhatia, Shyam

1994 The cut that tore a veil of tears, *The Observer* news Paper. 22.

Carr, Dara

1997 Female Genital Cutting: Findings from the Demographic and Health Surveys Program. Calverton, MD: Macro International.

Catania L., Abdulcadir O., Puppo V., Verde J.B., Abdulcadir J., Abdulcadir D.

2007 Pleasure and orgasm in women with female genital mutilation/cutting (FGM/C), *Journal of Sexual Medicine* 4(6): 1666–1678.

Coleman, Doriane Lambelet

1998 The Seattle compromise: Multicultural sensitivity and Americanization, *Duke Law Journal* 47(4): 717–783.

Dillon, Susan A.

2000 Healing the sacred Yoni in the land of Isis: Female genital mutilation is banned (again) in Egypt, *Houston Journal of International Law* 22(2): 289–326.

Hale, Sondra

2005 Colonial Discourse and Ethnographic Residuals: The Female Circumcision Debate and the politics of knowledge. In *Female Circumcision' and The Politics of Knowledge: African Women In Imperialist Discourses*. Nnaemeka Obioma, pp. 209–218. USA: Praeger Pub Text.

Hayes, Oldfield

1975 Female Genital Mutilation, Fertility Control, Women's Roles, and the Patrilineage in Modern Sudan: A Functional Analysis, *American Ethnologist* 2(4): 617–633.

Hicks, Eather K.

1996 *Infibulation: Female Mutilation in islamic north-eastern Africa*. UK: New Brunswick: Transaction Publisher.

Hoodfar, Homa

1997 Fertility and Sexual Politics. In *Between Marriage and the Market*. Homa Hoodfar, pp. 241–275. Berkeley: University of California Press.

Ismail S. A., Abbas A. M., Habib D., Morsy H., Saleh M.A., Bahloul M.

2017 Effect of female genital mutilation/cutting; types I and II on sexual function: case-controlled study, *Reprod Health* 14(108): 1–6.

Karanja, James

2009 *The Missionary Movement in Colonial Kenya: The Foundation of Africa Inland Church*. Göttingen: Cuvillier Verlag.

Londono Sulkin, Carlos

2009 Anthropology, Liberalism and Female Genital Cutting, *Anthropology Today* 25(6): 17–19.

Mann, Judy

1994 When journalists witness atrocities. *The Washington Post* (September 23).

Meghalli, Nabil

1994 *Circumcision persists as insult and injury to femininity*. Hamburg: Deutsche Presse-Agentur.

Meinardus, Otto

1976 Mythological, historical and sociological aspects of the practice of female circumcision among the Egyptians, *Acta Ethnographica Academiae Scientiarum Hungaricae* 16: 387–397.

Nnaemeka, Obioma

2005 African Women, Colonial Discourses, and Imperialist Interventions: Female Circumcision as Impetus. In *'Female Circumcision' and the Politics of Knowledge: African Women in Imperialist Discourses*. Nnaemeka Obioma, pp. 27–45. USA: Praeger Pub Text.

Nussbaum, Martha C.

1999 *Sex and Social Justice*. New York: Oxford University Press.

Omaima El-Gibaly, Barbara Ibrahim, Barbara S. Mensch, Wesley H. Clark

2002 The decline of female circumcision in Egypt: evidence and interpretation, *Soc. Sci. Med.* 54(2): 205–220.

Ronan Van Rossem et al.

2015 The decline of FGM in Egypt since 1987: a cohort analysis of the Egypt Demographic and Health Sur-

- veys, *BMC Public Health* 15(874): 1–13.
- 2020 Women's position and attitudes towards female genital mutilation in Egypt: A secondary analysis of the Egypt demographic and health surveys, 1995–2014, *BMC Public Health* 15 20: 1–11.
- Rorty, R.  
1989 *Contingency, irony and solidarity*. Cambridge. New York: Cambridge University Press.
- Sa'dāwī, Nawāl, and Sharif Hatātah  
1980 *The hidden face of Eve: Women in the Arab world*. London: Zed Press.
- Said, Edward W.  
1979 *Orientalism*. New York: Vintage Books.
- Tag-Eldin, Mohammed A., Mohsen A. Gadallah, Mahmoud N. Al-Tayeb, Mostafa Abdel-Aty, Esmat Mansour, Mona Sallem  
2008 Prevalence of female genital cutting among Egyptian girls, *Bulletin of the World Health Organisation* 86(4): 269–274.
- Trucker, Vincent  
1999 The Myth of Development: A Critique of Eurocentric Discourse. In *Critical Development Theory: Contributions to a New Paradigm*. R. Munck and D. O'Hearn (eds.), pp. 1–26. London: Zed Books.
- World Health Organization, Department of Reproductive Health and Research and Joint United Nations Programme on HIV/AIDS (UNAIDS)  
2007 *Male circumcision: Global trends and determinants of prevalence, safety and acceptability*. Geneva.
- United Nations Children's Fund  
2013 *Female Genital Mutilation/Cutting: A Statistical Overview and Exploration of the Dynamics of Change*. New York: Unicef.
- Wehr, Hans, and J. Milton Cowan  
1976 *A Dictionary of Modern Written Arabic*. London: Harrap [etc.].
- World Health Organization  
1996 *Female Genital Mutilation: Report of a WHO Technical Working Group*, Geneva.
- World Health Organization, Department of Reproductive Health and Research  
2008 Eliminating female genital mutilation An interagency statement, OHCHR, UNAIDS, UNDP, UNECA, UNESCO, UNFPA, UNHCR, UNICEF, UNIFEM, WHO.
- (アラビア語文献)
- al-Nawawī, Abū Zakariyyā Yahyā ibn Sharaf  
1392 AH–1972 AD Sahih Muslim Ibn Al-Hajjaj による Al-Minhaj の解説、巻 3 (第 2 版)。ペイルート・レバノン：ダール。エヒヤー。アルトラース。アラビアー (*dar 'iihya' alturath alearabii*)。  
أبو زكريا محيي الدين يحيى بن شرف النووي  
(1392 هـ). المنهاج شرح صحيح مسلم بن الحجاج، المجلد الثالث (الطبعة الثانية). بيروت – لبنان: دار إحياء التراث العربي.
- Al-Shawish, Zuhair (調査者)  
1412 AH–1991 AD 『アブ・ザカリヤ・ヤフヤー・ブン・シャラフ・アル＝ナワウィー al-Nawawī, Abū Zakariyyā Yahyā ibn Sharaf 1991 『ラウダト・アル＝ターリピン・ワウムダトアルムフティーン』、第 10 巻 (第 3 版)。ペイルート・レバノン：イスラーム事務所。  
تحقيق: زهير الشاويش  
1412 هـ - 1991 م) النووي أبو زكريا محيي الدين يحيى بن شرف. روضة الطالبين وعمدة المفتين، الجزء العاشر (الطبعة الثالثة). المكتب الإسلامي: بيروت - لبنان
- Shaltut, Mahmoud  
2004 『ファターワー——日常生活における現代のイスラーム教徒の問題の研究』第 14 版。カイロ・エジプト：ダール。アルシュルーク。  
الشروق  
2004 - دراسة لمشكلات المسلم المعاصر في حياته العامة. القاهرة - مصر : دار الشروق

## Keywords

Female Circumcision, FGM, feminism, universalism, Representation of others